

【特別支援学校用】

令和6年度学校評価 計画

学校名	佐賀県立中原特別支援学校(本校)																																																			
1 前年度 評価結果の概要	○令和6年度校務分掌組織において、自立活動部を「自立活動部」と「研究部」に分離することにより、自立活動の推進、授業づくりの充実等、専門性の向上を図る。 ○進路指導については、引き続き実習等の丁寧な説明や情報の提供を行い、キャリア教育の充実、発展を目指す。 ○特別支援教育のセンター的機能の充実については、関係機関との連携を図りながら、巡回相談や研修会を実施し、地域に定着してきた。今後もニーズの把握や分析をしながら、継続して取り組んでいく。																																																			
2 学校教育目標	一人一人に応じた指導・支援をとおして、児童生徒がもっている能力や可能性を最大限に伸ばし、明るくすこやかで豊かな心をもち、自立し社会参加できる児童生徒の育成を目指す。																																																			
3 本年度の重点目標	「児童生徒の豊かな生活と成長の保障」 ①専門性の更なる向上と、教育活動への反映 ②個に応じた進路指導の充実 ③特別支援教育のセンター的機能の充実																																																			
4 重点取組内容・成果指標	<table border="1"> <tr> <th colspan="4">(1)共通評価項目</th><th rowspan="2">主な担当者</th></tr> <tr> <th>評価項目</th><th>重点取組</th><th>成果指標 (数値目標)</th><th>具体的取組</th></tr> <tr> <td rowspan="2">●学力の向上</td><td>○児童生徒一人一人のニーズに応じた指導・支援による確かな学力の定着</td><td>○児童生徒の実態把握と学習指導要領の各教科等の学習状況を踏まえて学習内容の設定を行い、学力の定着につながる授業ができたと答える教員が80%以上 ○児童生徒の実態に応じた指導・支援により、学んだことが身に付いていると答える保護者が80%以上</td><td>・個別の指導計画の作成を通して、児童生徒の実態を把握し、学習指導要領の各教科等の内容と「字ひの履歴」を踏まえて学習内容の設定を行う。また、学年や学習グループでの個別の指導計画の検討と評価を継続して行い、PDCAサイクルを通して授業改善につなげる。</td><td rowspan="2">教務部</td></tr> <tr> <td rowspan="3">●心の教育</td><td>●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動</td><td>○学習や児童生徒会の活動、行事等の各学習において「思いやりや豊かな心」を育む指導を心がけた教員が80%以上 ○「思いやりや豊かな心」を育むために、学校生活が役に立っていると思う保護者が80%以上</td><td>・全課程全学年の児童生徒に「平等、尊重」の心を育む児童生徒会活動や集会を実施する。 ・人権・同和教育研修会を実施する。</td><td>生活指導部</td></tr> <tr> <td rowspan="2">●健康・体づくり</td><td>●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実</td><td>○いじめの未然防止、早期発見と対応に向け、職員の共通理解ができていると答える教員が80%以上 ○日常の連絡、面談、調査等で、児童生徒の生活状況を学校(担当)と共通理解できていると答える保護者が80%以上</td><td>・学校基本方針の共通理解と周知徹底のために職員研修を実施する。 ・職員アンケートを月1回、保護者アンケートを学期1回実施する。</td><td>生活指導部</td></tr> <tr> <td rowspan="2">●地域支援</td><td>●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動</td><td>●「先生はあなたのよいところを認めていると思う」と回答する児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をする児童生徒80%以上</td><td>・「わかる」「できる」授業実践を通して、スモールステップでの目標を設定し、児童生徒の自己肯定感を高めるとともに、「わかったこと」「できたこと」を認め、ほめる。 ・小・中・高と連携した体験的な学習活動や進路学習、就業・施設体験を実施する。</td><td>教務部 進路指導部</td></tr> <tr> <td rowspan="2">●業務改善・教職員の働き方改革の推進</td><td>●望ましい生活習慣の形成 ●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成</td><td>○早寝早起きをし、毎朝朝食を食べていると回答した児童生徒が80%以上 ●「健康に良い食事をしている」と回答する児童生徒80%以上</td><td>・食育講話を実施し、食への関心を高め、知識の向上に繋げる。 ・給食試食会を実施する。 ・食育だよりや保健だよりに食育に関する情報を掲載する。</td><td>保健厚生部</td></tr> <tr> <td rowspan="2">●業務改善・教職員の働き方改革の推進</td><td>●効果的な地域支援に向けた特別支援学校のセンター的機能の充実</td><td>○各職員や分掌部の専門性や知見を地域支援に活かす 本校は地域の特別支援教育のセンター校の役割を十分に果たしている」と回答する職員が80%以上 ○研修会の内容や巡回相談の活用について適宜評価する 巡回相談における支援・助言により状況が改善したと考える学校が80%以上</td><td>・地域の要請に応じて、校内の分掌部及び、専門家チーム、地域のアドバイザー、特別支援教育エリアリーダー等各関係機関と連携しながら巡回相談を実施する。 ・地域支援組織表を作成し、各分掌部会や職員会議でセンター的機能の役割を周知し、年度末に取組についての評価を行う。 ・研修会後等にアンケートを行い、研修会や巡回相談についての地域のニーズを把握し、分析活用する。</td><td>地域支援部</td></tr> <tr> <td rowspan="2">●業務改善・教職員の働き方改革の推進</td><td>○地域の人々と活動を共にする交流及び共同学習の積極的な推進</td><td>○地域の学校・行政・地域各種団体等(中原ふれあい教育を進める会)と連携し、コロナ禍前の地域交流の実施80%以上</td><td>・地域各種団体と合同での年2回のふれあい活動や居住地域交流を実施。 ・地域の団体との普道び交流会を実施。 ・地域高等学校との交流演奏会を実施。</td><td>総務部</td></tr> <tr> <td rowspan="2">●業務改善・教職員の働き方改革の推進</td><td>●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減</td><td>●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守することで、「遵守できた」と回答した職員が80%以上</td><td>・年間12回以上「完全定時退勤日」を設定する。 ・毎週金曜日に「ノー会議デー・定時退勤推進日」を設定する。 ・時間外在校等時間が45時間を超える職員については管理職による面接を実施する。</td><td>管理職</td></tr> </table>			(1)共通評価項目				主な担当者	評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	●学力の向上	○児童生徒一人一人のニーズに応じた指導・支援による確かな学力の定着	○児童生徒の実態把握と学習指導要領の各教科等の学習状況を踏まえて学習内容の設定を行い、学力の定着につながる授業ができたと答える教員が80%以上 ○児童生徒の実態に応じた指導・支援により、学んだことが身に付いていると答える保護者が80%以上	・個別の指導計画の作成を通して、児童生徒の実態を把握し、学習指導要領の各教科等の内容と「字ひの履歴」を踏まえて学習内容の設定を行う。また、学年や学習グループでの個別の指導計画の検討と評価を継続して行い、PDCAサイクルを通して授業改善につなげる。	教務部	●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学習や児童生徒会の活動、行事等の各学習において「思いやりや豊かな心」を育む指導を心がけた教員が80%以上 ○「思いやりや豊かな心」を育むために、学校生活が役に立っていると思う保護者が80%以上	・全課程全学年の児童生徒に「平等、尊重」の心を育む児童生徒会活動や集会を実施する。 ・人権・同和教育研修会を実施する。	生活指導部	●健康・体づくり	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめの未然防止、早期発見と対応に向け、職員の共通理解ができていると答える教員が80%以上 ○日常の連絡、面談、調査等で、児童生徒の生活状況を学校(担当)と共通理解できていると答える保護者が80%以上	・学校基本方針の共通理解と周知徹底のために職員研修を実施する。 ・職員アンケートを月1回、保護者アンケートを学期1回実施する。	生活指導部	●地域支援	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めていると思う」と回答する児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をする児童生徒80%以上	・「わかる」「できる」授業実践を通して、スモールステップでの目標を設定し、児童生徒の自己肯定感を高めるとともに、「わかったこと」「できたこと」を認め、ほめる。 ・小・中・高と連携した体験的な学習活動や進路学習、就業・施設体験を実施する。	教務部 進路指導部	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●望ましい生活習慣の形成 ●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	○早寝早起きをし、毎朝朝食を食べていると回答した児童生徒が80%以上 ●「健康に良い食事をしている」と回答する児童生徒80%以上	・食育講話を実施し、食への関心を高め、知識の向上に繋げる。 ・給食試食会を実施する。 ・食育だよりや保健だよりに食育に関する情報を掲載する。	保健厚生部	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●効果的な地域支援に向けた特別支援学校のセンター的機能の充実	○各職員や分掌部の専門性や知見を地域支援に活かす 本校は地域の特別支援教育のセンター校の役割を十分に果たしている」と回答する職員が80%以上 ○研修会の内容や巡回相談の活用について適宜評価する 巡回相談における支援・助言により状況が改善したと考える学校が80%以上	・地域の要請に応じて、校内の分掌部及び、専門家チーム、地域のアドバイザー、特別支援教育エリアリーダー等各関係機関と連携しながら巡回相談を実施する。 ・地域支援組織表を作成し、各分掌部会や職員会議でセンター的機能の役割を周知し、年度末に取組についての評価を行う。 ・研修会後等にアンケートを行い、研修会や巡回相談についての地域のニーズを把握し、分析活用する。	地域支援部	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○地域の人々と活動を共にする交流及び共同学習の積極的な推進	○地域の学校・行政・地域各種団体等(中原ふれあい教育を進める会)と連携し、コロナ禍前の地域交流の実施80%以上	・地域各種団体と合同での年2回のふれあい活動や居住地域交流を実施。 ・地域の団体との普道び交流会を実施。 ・地域高等学校との交流演奏会を実施。	総務部	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守することで、「遵守できた」と回答した職員が80%以上	・年間12回以上「完全定時退勤日」を設定する。 ・毎週金曜日に「ノー会議デー・定時退勤推進日」を設定する。 ・時間外在校等時間が45時間を超える職員については管理職による面接を実施する。	管理職
(1)共通評価項目				主な担当者																																																
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組																																																	
●学力の向上	○児童生徒一人一人のニーズに応じた指導・支援による確かな学力の定着	○児童生徒の実態把握と学習指導要領の各教科等の学習状況を踏まえて学習内容の設定を行い、学力の定着につながる授業ができたと答える教員が80%以上 ○児童生徒の実態に応じた指導・支援により、学んだことが身に付いていると答える保護者が80%以上	・個別の指導計画の作成を通して、児童生徒の実態を把握し、学習指導要領の各教科等の内容と「字ひの履歴」を踏まえて学習内容の設定を行う。また、学年や学習グループでの個別の指導計画の検討と評価を継続して行い、PDCAサイクルを通して授業改善につなげる。	教務部																																																
	●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学習や児童生徒会の活動、行事等の各学習において「思いやりや豊かな心」を育む指導を心がけた教員が80%以上 ○「思いやりや豊かな心」を育むために、学校生活が役に立っていると思う保護者が80%以上		・全課程全学年の児童生徒に「平等、尊重」の心を育む児童生徒会活動や集会を実施する。 ・人権・同和教育研修会を実施する。	生活指導部																																														
●健康・体づくり		●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめの未然防止、早期発見と対応に向け、職員の共通理解ができていると答える教員が80%以上 ○日常の連絡、面談、調査等で、児童生徒の生活状況を学校(担当)と共通理解できていると答える保護者が80%以上	・学校基本方針の共通理解と周知徹底のために職員研修を実施する。 ・職員アンケートを月1回、保護者アンケートを学期1回実施する。	生活指導部																																															
		●地域支援	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めていると思う」と回答する児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をする児童生徒80%以上	・「わかる」「できる」授業実践を通して、スモールステップでの目標を設定し、児童生徒の自己肯定感を高めるとともに、「わかったこと」「できたこと」を認め、ほめる。 ・小・中・高と連携した体験的な学習活動や進路学習、就業・施設体験を実施する。	教務部 進路指導部																																														
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●望ましい生活習慣の形成 ●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成		○早寝早起きをし、毎朝朝食を食べていると回答した児童生徒が80%以上 ●「健康に良い食事をしている」と回答する児童生徒80%以上	・食育講話を実施し、食への関心を高め、知識の向上に繋げる。 ・給食試食会を実施する。 ・食育だよりや保健だよりに食育に関する情報を掲載する。	保健厚生部																																															
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●効果的な地域支援に向けた特別支援学校のセンター的機能の充実	○各職員や分掌部の専門性や知見を地域支援に活かす 本校は地域の特別支援教育のセンター校の役割を十分に果たしている」と回答する職員が80%以上 ○研修会の内容や巡回相談の活用について適宜評価する 巡回相談における支援・助言により状況が改善したと考える学校が80%以上	・地域の要請に応じて、校内の分掌部及び、専門家チーム、地域のアドバイザー、特別支援教育エリアリーダー等各関係機関と連携しながら巡回相談を実施する。 ・地域支援組織表を作成し、各分掌部会や職員会議でセンター的機能の役割を周知し、年度末に取組についての評価を行う。 ・研修会後等にアンケートを行い、研修会や巡回相談についての地域のニーズを把握し、分析活用する。	地域支援部																																															
●業務改善・教職員の働き方改革の推進		○地域の人々と活動を共にする交流及び共同学習の積極的な推進	○地域の学校・行政・地域各種団体等(中原ふれあい教育を進める会)と連携し、コロナ禍前の地域交流の実施80%以上	・地域各種団体と合同での年2回のふれあい活動や居住地域交流を実施。 ・地域の団体との普道び交流会を実施。 ・地域高等学校との交流演奏会を実施。	総務部																																															
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守することで、「遵守できた」と回答した職員が80%以上	・年間12回以上「完全定時退勤日」を設定する。 ・毎週金曜日に「ノー会議デー・定時退勤推進日」を設定する。 ・時間外在校等時間が45時間を超える職員については管理職による面接を実施する。	管理職																																															
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目		<table border="1"> <tr> <th colspan="4">重点取組</th><th rowspan="2">主な担当者</th></tr> <tr> <th>評価項目</th><th>重点取組内容</th><th>成果指標 (数値目標)</th><th>具体的取組</th></tr> <tr> <td>○教育DXの推進</td><td>○教育活動におけるICT等の機器活用 ○デジタル化による効率的な校務の実施</td><td>○ICT機器等を用いて、児童生徒の教科等の学習の理解を高めたり、児童生徒が学習等に取り組める環境をつくり出すことができたと答える教員、保護者が70%以上 ○デジタル化により校務の効率化が図れていると答える教員が70%以上</td><td>○ICT活用に係る職員研修の実施、ヘルプデスク(現地員)との連携、校務分掌担当者によるサポート ○研修等のオンデマンド化、アンケートや提出物のデジタル化</td><td>ICT教育支援部</td></tr> <tr> <td>○自立活動の充実</td><td>○児童生徒の得意なことを活かした自立活動の指導の実践と充実</td><td>○個々の児童生徒の得意なことや好きなことを活かし、基本的な行動力を身に付け、障害による困難さやつまずきを改善・克服することにつながる授業実践ができたと答える教員が70%以上</td><td>・自立活動指導計画の作成を通して、児童生徒の実態を把握し、6区分27項目に沿って学習内容の設定を行う。また、学年や学習グループで児童生徒の様子を共通理解し、自立活動指導計画の検討と評価を継続して行い、PDCAサイクルを通して授業改善につなげる。</td><td>自立活動部</td></tr> </table>			重点取組				主な担当者	評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	○教育DXの推進	○教育活動におけるICT等の機器活用 ○デジタル化による効率的な校務の実施	○ICT機器等を用いて、児童生徒の教科等の学習の理解を高めたり、児童生徒が学習等に取り組める環境をつくり出すことができたと答える教員、保護者が70%以上 ○デジタル化により校務の効率化が図れていると答える教員が70%以上	○ICT活用に係る職員研修の実施、ヘルプデスク(現地員)との連携、校務分掌担当者によるサポート ○研修等のオンデマンド化、アンケートや提出物のデジタル化	ICT教育支援部	○自立活動の充実	○児童生徒の得意なことを活かした自立活動の指導の実践と充実	○個々の児童生徒の得意なことや好きなことを活かし、基本的な行動力を身に付け、障害による困難さやつまずきを改善・克服することにつながる授業実践ができたと答える教員が70%以上	・自立活動指導計画の作成を通して、児童生徒の実態を把握し、6区分27項目に沿って学習内容の設定を行う。また、学年や学習グループで児童生徒の様子を共通理解し、自立活動指導計画の検討と評価を継続して行い、PDCAサイクルを通して授業改善につなげる。	自立活動部																													
重点取組				主な担当者																																																
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組																																																	
○教育DXの推進	○教育活動におけるICT等の機器活用 ○デジタル化による効率的な校務の実施	○ICT機器等を用いて、児童生徒の教科等の学習の理解を高めたり、児童生徒が学習等に取り組める環境をつくり出すことができたと答える教員、保護者が70%以上 ○デジタル化により校務の効率化が図れていると答える教員が70%以上	○ICT活用に係る職員研修の実施、ヘルプデスク(現地員)との連携、校務分掌担当者によるサポート ○研修等のオンデマンド化、アンケートや提出物のデジタル化	ICT教育支援部																																																
○自立活動の充実	○児童生徒の得意なことを活かした自立活動の指導の実践と充実	○個々の児童生徒の得意なことや好きなことを活かし、基本的な行動力を身に付け、障害による困難さやつまずきを改善・克服することにつながる授業実践ができたと答える教員が70%以上	・自立活動指導計画の作成を通して、児童生徒の実態を把握し、6区分27項目に沿って学習内容の設定を行う。また、学年や学習グループで児童生徒の様子を共通理解し、自立活動指導計画の検討と評価を継続して行い、PDCAサイクルを通して授業改善につなげる。	自立活動部																																																
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育																																																				
5 総合評価・次年度への展望	・ ・ ・																																																			